**西村良太,北岡教英,中川聖一「音声対話における韻律変化をもたらす要因分析」『音声研究』13.3(日本音声学会,2009)pp.66-84**

テーマ実習で行った相槌の納得度評価を経て、発話長や発話タイミングの検討も必要と感じた。そのため、今回は発話タイミングを調査した文献を読み、発話タイミングの分析方法と分析結果について知見を得たい。

西村ら(2009)は人間同士の対話のリズムに着目し対話者間の相互作用について調査・分析している。その中で韻律変化に対し人間が感じる印象を調査・分析している。調査方法は被験者が対話音声を聴収し５段階のアンケートに回答する。評価項目は「親しさ」「盛り上がり」「同意反発」「年齢差」「かみ合い」である。分析の結果、「親しさ」「盛り上がり」「同意反発」「かみ合い」はオーバーラップと正の相関があった。また、韻律情報のみを用いた評価では「親しさ」「盛り上がり」「かみ合い」を判定できるが「同意」「年齢差」は困難であった。

西村ら(2009)の研究から対話のオーバーラップおよび韻律情報から対話の盛り上がりを評価できることがわかった。そして、発話タイミングの評価に韻律情報のみを取り出した音声（ハミング音）を用いるというアイデアを得ることができた。しかし韻律情報のみを用いた評価では「同意」に関する評価は難しいようである。そのため、次回は「同意反発」の評価に関する文献を調査したい。